

富山市立月岡小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	3	2	3	1	15	
児童数	78	76	72	85	63	81	3	458	21

・実践研究の概要(主題(テーマ)及び設定の趣旨)

<p>・主題(テーマ) 自ら学び、確かな学力を身に付ける子供の育成 ～個に応じた指導法や形態の工夫・改善を求めて～</p> <p>・テーマ設定の趣旨 昨年度は、生活科や総合的な学習の時間を中心とした授業研究を通して、研修主題「自ら学び、心豊かで活力のある子供の育成」の解明を進めてきた。その結果、問題解決への学び方に関するスキル(能力)を系統的にとらえ、各場面でしっかりと養っていくことが大切であると判明した。同時に、自ら学ぶ際の基礎となる「学習内容の知識・理解、技能、思考力」、及び人の話に心を傾けて聞き自らの考えを相手に積極的に伝えようとする基本的な「学習態度」が、一人一人に身に付いていることが必要であることも明らかになった。つまり、確かな学力を身に付けるには、基礎的・基本的な学力が一人一人にしっかりと身に付いていることが素地となり、自ら学び自ら考える姿につながると考えた。</p> <p>そこで、本年度は文部科学省の学力向上フロンティアスクールの指定を受け、一人一人が「確かな学力」を身に付けるための個に応じた指導法の在り方を求めて本主題を設定した。</p>
--

・実践研究の内容について

( ) 研究体制の工夫

研究内容・方法は以下の通りだが、ここでは の「個人カルテを生かした個に応じた指導」について、( )で述べたい。

小中を見通した指導について小中合同研修会や授業参観・TT授業を行いながら、小中の教員が共に考え合う。

個人カルテの作成・少人数指導・選択コース別指導など個に応じた指導法や形態の工夫を授業研修を通して探る。

生活に根ざした教材の開発や、個に応じた教材との出会い方・かかわり方の工夫を授業研修を通して探る。

( ) 実践研究の内容

1 単元名 たしざん(1年算数科)

2 単元について

子供たちは「いくつといくつ」「あわせていくつ ふえるといくつ」「のこりはいくつちがいはいくつ」の学習で、具体物や半具体物を操作しながら数の合成・分解、加法や減法の意味、式と計算の仕方を学んできた。これらの学習を通して、式を見ればすぐに答えが分かり、次々と問題をこなす子供もいれば、その一方ではノートに を書いてその数を数えて計算する子、指を使って計算する子など、自分で方法を考え何とか解こうとする子供もおり、少しずつ個人差が見られるようになってきた。

繰り上がりのあるたし算は、子供たちにとって困難を感じ個人差がより顕著に出る単元であると考えられる。そこで、本単元では、子供の実態にあった教材や教具を工夫し、一人一人が意欲的に学習を進めることができるようにしていきたいと考え、導入にカーリングゲームを取り入れた。

カーリングゲームは、紙の上に円を描きそこにブロックを指ではじいて、その円の中にブロックが入れば得点となるゲームである。単純なゲームであるため、どの子供も容易に取り組むことができる。このゲームを1人2回やり、1回につき10個のブロックを指ではじく。2回の合計点を自分の得点とするため、自分の得点を知るためにはたし算をする

必要が出てくる。また、その時その時でいろいろな点数となるため、多様な計算が出てくるよさがある。

子供の実態に応じた指導をするために、一人一人の学習状況をしっかりと把握することが必要であると考え、本校では算数科において「基礎的・基本的内容個人カルテ」(A数と計算領域)を使用している。

本単元では、各時間ごとの「たし算カルテ」を作った。それをもとに活動に積極的な子供、数えたしで答えを求める子供、10のまとまりをなかなか見つけられない子供などをチェックして、個々に応じた支援をしていきたいと考えた。

### 3 実践 - 個人カルテに基づく個別指導で意欲的に計算に取り組んだK児の姿から -

算数科の基礎的・基本的内容個人カルテ (A数と計算領域)					
		年 組 K児			
		加 法	減 法	乗 法	除 法
1年	<input checked="" type="checkbox"/> は、本単元開始前の到達 <input type="checkbox"/> は、本単元終了後の到達	① <input checked="" type="checkbox"/> 10までの数 ② <input type="checkbox"/> 10までの数の合成・分解 ③ <input type="checkbox"/> 10の補数 ④ <input type="checkbox"/> 集合数と順序数  <input checked="" type="checkbox"/> 5以下の数どうしの加法② <input type="checkbox"/> 和が10以内の加法③  <input type="checkbox"/> 20までの数の合成・分解④ <input type="checkbox"/> 3口の加減混合計算  <input type="checkbox"/> 1位数どうしの繰り上がりのある加法⑧⑨	<input type="checkbox"/> 被減数が10以内の減法①  <input type="checkbox"/> 11～18-1位数の繰り下がりのある減法②③		
2年		<input type="checkbox"/> 何十+何十の暗算⑩ <input type="checkbox"/> 2位数+1・2位数の筆算	<input type="checkbox"/> 何十-何十の暗算⑩ <input type="checkbox"/> 2位数-1・2位数の筆算	<input type="checkbox"/> 九九⑪⑫ <input type="checkbox"/> 5の段の九九の暗唱と適用⑬	

たし算 個人カルテ					
		名前 K児 (3/11時まで)			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
1	<input checked="" type="checkbox"/>	ゲームのやり方が分かり、進んで参加しようとする。	<input type="checkbox"/> 数えたしの方法で和が10までの得点を考えている。	<input type="checkbox"/> 和が10までの得点を計算することができる。	<input type="checkbox"/> 和が10までのたし算の計算の仕方を理解している。
2	<input checked="" type="checkbox"/>	自分なりの方法で9+2の計算の仕方を見つけ出そうとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 数えたしの方法で考えている。 <input type="checkbox"/> 10のまとまりに着目し、加数分解の方法で考えている。	<input type="checkbox"/> 自分の考えた方法を、画用紙にかいたり発表したりして、分かりやすく伝えることができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 被加数が9のたし算を確実にできる。	<input type="checkbox"/> 友達の考えを理解している。 <input checked="" type="checkbox"/> 9+2の計算の仕方を理解している。 <input type="checkbox"/> 被加数が9のたし算の仕方を理解している。
3	<input checked="" type="checkbox"/>	自分なりの方法で6+7の計算の仕方を見つけ出そうとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 数えたしの方法で考えている。 <input type="checkbox"/> 10のまとまりに着目し、加数分解の方法で考えている。 <input type="checkbox"/> 10のまとまりに着目し、被加数分解の方法で考えている。 <input type="checkbox"/> 5と5のまとまりに着目し、両数分解の方法で考えている。	<input type="checkbox"/> 自分の考えた方法を、画用紙にかいたり発表したりして、分かりやすく伝えることができる。	<input type="checkbox"/> 自分なりの方法で、6+7の計算の仕方を理解している。
4	<input type="checkbox"/>	自分の考えを進んで発表しようとする。	<input type="checkbox"/> 数えたしの方法で考えている。 <input type="checkbox"/> 10のまとまりに着目し、加数分解	<input type="checkbox"/> 自分の考えた方法を、プロックなどを操作しながら分か	<input type="checkbox"/> 友達の考えを理解している。

このカルテから3 / 11 時までのK児の到達度を見ると、和が10までのたし算が確実にできず、友達の考えを理解することが困難であった。また、10のまとまりに対する意識が乏しいことが分かった。前単元の「20までのかず」でも、10を一つのまとまりとしてはとらえられず、1、2、3...と順番に数えていた。

そのため、K児が内容を一つ一つ理解しながら学習を進めていけるよう、個別に指導をする必要があった。本学級には多人数学級支援講師(T<sub>2</sub>)が配属されているので、K児の指

導を重点的にするよう事前に打ち合わせをした。

#### 4 / 1 1 時の学習の様子

T<sub>2</sub> ここに6個置かれ。こっちに7個置かれ。

K児（ブロックケースにそれぞれブロックを6個と7個置く）

T<sub>2</sub>（6個置いてあるブロックケースの空欄になっているところを指さして）  
あと何個分ここ空いている？

K児 4個。

T<sub>2</sub> なら、次どうするが？

K児 こっちの（7個のブロックの方を指す）4個を  
こっちにもってくる。（4個のブロックを6個の  
上に置く）

T<sub>2</sub> そしたら、こっちは何個になった？

K児 10個。

T<sub>2</sub> じゃあ、こっちは？

K児 3個。あつ、答えは13だ。



支援講師は、他の子供が説明している時にK児のそばで補足説明をしたり、一緒に数えたりしていた。また、操作するときには、K児の思考の速さにあわせて支援することによって、細かいステップで集中して学習に取り組むことができるようになってきた。単元終了後には、「たし算カルテ」の印から分かるように、K児のたし算の理解は向上している。

K児のノート（4 / 1 1 学習終了後）

ブロックをならべてかぞえました。

むずかしかったけど、Kせんせいがいろいろおしえてくれたので、たし算のやりかたがわかりました。

#### （ ）成果と課題

- ・ 個人カルテやレディネステスト等で児童の実態を把握した上で単元構想を工夫した。さらに、学習を進めながら個人カルテに一人一人の成長を記録していくことにより、担任や多人数学級支援講師、少人数指導教諭等、複数の教師で共通理解を図りながら、それぞれの子供の力に応じたきめ細かい個別指導をすることができた。
- ・ 「算数科基礎的・基本的内容の個人カルテ（A数と計算領域）」に対応した児童用の自己評価カード「計算ぐんぐん」と、その診断・練習のための問題プリント100枚（1～6年まで）を作成してしてみたが、使いこなせず改善の余地がある。
- ・ 評価と指導の一体化を図るために、より記入しやすく実際の指導に生かせる「個人カルテ」の作成と活用の仕方を今後も授業研修を通して探っていきたい。

#### （ ）成果の普及方策

- ・ ホームページで、本年度作成した「個人カルテ」（個人の記録は除く）を公開する。

#### （ ）その他

- ・ 本校は、富山市の中でも数少ない、1中学校区に1小学校がある地区の学校である。そのため、比較的小中の連携は行いやすいのだが、これまで授業研究をするまでには至らなかった。今年度初めて互いの学習参観をしたり合同研修会やTT授業をしたりすることにより、同じ校区の共通の子供を育てるという認識をもつことができた。中学校の専門性を生かして小学校でTT授業をすることによって子供の見方が広がったり、算数から数学へと思考の流れを発展的に考えたりして、児童生徒を長期的にとらえていく視点が明らかになった。互いの指導方針や研修体制の在り方など、まだまだ十分に理解し合えない面もあるが、本年度は9年間を見通した指導の在り方を探る大事な一歩となった。